# 上田地域もの・こと交換制度
# 蚕都くらぶ

# ま～ゆ

蚕都くらぶま～ゆ会報

## No.23

2005年5月10日発行


代 表　　安 井 啓 子

ま～ゆ 連絡先　前 田 光 俊

〒386-0041 上田市 秋和 503-6

TEL/FAX　　27-1230

メールアドレス　　ma-yu@po9.ueda.com

ホームページ（検索エンジンで 地域通貨 ま～ゆ を開いてください）

# 文字どおり 花より団子のま～ゆ市でした

今年の桜は昔の平年並みで昨年より１週間も遅れたので、つぼみ見になってしまいました。
が、縁舎が誇る古田シェフにご自慢の五平餅を焼いてもらって、こだわりの団子(ヨモギあんこと醤油海苔巻き)も登場。
それぞれに持ち寄った“わが自慢料理”が「回ってくるわくるわ」。
おなかがパンパンに膨れました。

## 五平餅の作り方

○ 用意するもの

・八丁みそ（白・赤）　・砂糖　・みりん　・白米(もち米は使いません)

五平餅の種は山椒・胡麻・くるみ など、いろいろな種を使ってみてください

○ 種の作り方

①八丁みその赤を5、白を1の割合で混ぜる

②次に、種となる、くるみや山椒などを入れ、味をみながらみりん・砂糖を加える。甘い、辛いはお好みで

○ ご飯の作り方

①ご飯を炊いて、ボールや すり鉢に移し、半殺しにします

②ご飯粒は形が少し残る程度まですりつぶしてください

○ 五平餅の仕上げ

①つぶしたご飯を割り箸(二つに折らず、そのまま使用)に巻きます
割り箸につける目安は、だいたいご飯茶碗1杯（150グラム程度）

②割り箸に巻いたご飯を炭火で焼き（ガスコンロでも可）、焦げ目がつかない程度まで焼きます

③焦げ目がつくころ種をぬり、それをもう一度炭火で焼き、みそに焦げ目がついたら出来上がりです

朝から五平餅の仕込をして、みんなに幸せを味合わせてくださった古田のとっつぁんに拍手。

# 疲れたけれど楽しかった 味噌づくり 来年もまた

No.159 宮坂 潤子

２月の初め友人から美味しい「ま～ゆ味噌」を頂きました。子供の頃家族全員で味噌作りをしたことを思い出し、また「ま～ゆ」のことを語る友人の楽しそうな様子に、是非参加して私も手作り味噌を作りたいと３月に「まーゆ」に入りました。

今年の味噌づくりはムリかな？と思っていましたが間に合い、快く仲間に入れてもらうことができワクワクしながら迎えた初日の豆洗い・・・・はりきって集合時間30分前に行ったところ、なんと既に終わっているではありませんか　大きな桶にきれいに洗った豆が光っていました。初めて顔を合わせる方も大勢いる中で「あらどうしましょう」何ともバツが悪い思いでいると、誰かが「桶に手を入れて豆にさわって、それで洗ったことになるから」！！！！　　なんとまあ心の広い人達なのでしょう。
ほっとして、後のお茶飲みにはしっかり参加しました。

２日目は豆炊きです。大きな釜に３つ　煙に目をこすりながら薪をくべ、豆をかき混ぜ、あく（白い泡）を取ること３時間余コトコト、ふっくらと煮上がり豆のよい香りがプーンと漂いました。

３日目がメインの仕込みです。皆さんともすっかり顔なじみになり輪になって、真ん中につぶした豆･麹･塩を置き混ぜ合わせます。ワイワイガヤガヤ賑やかなこと、力まかせに味噌玉を投げ合い和気あいあいと楽しく出来ましたが、これが結構大変。なんたって量が多いんです。

疲れました（夕飯に箸を持つ右手が思うように上がらない位･･･本当です）・・・トホホホ・・・
でも、翌朝にはすっかり回復し、昨日の疲れも忘れて味噌玉のぎっしり詰まったカメを見ながら 10 ヵ月後に食べられる美味しい味噌を思い浮かべてニコニコしていました。

３日間の味噌作りを通して多くの人と知り合いになれ、参加している皆さんの「ま～ゆ」に対する熱い思いを強く感じました。一人では出来ないことも大勢で協力すれば楽しみながらに出来るのですね。

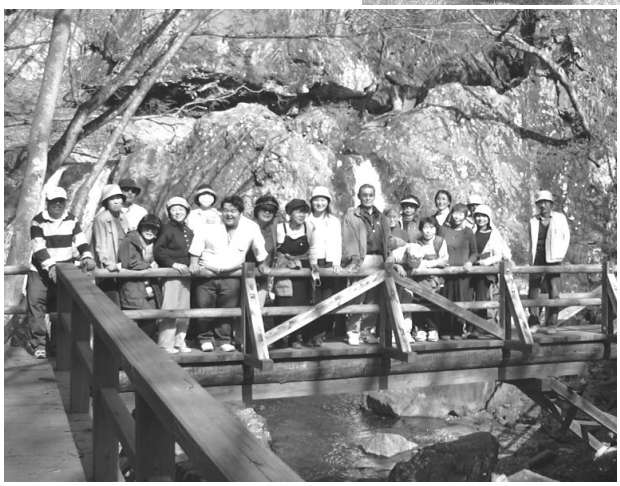
事前に準備をしてくださった皆さんありがとうございました。これからも出来る範囲で参加し、一緒に楽しみたいと思いますのでよろしくお願いします。

4月17日(日) 快晴でしたが

# 見捨てロ/ーツアー

ま～ゆのパワーで
「咲かせたかった」

「旧中込学校は本当にすばらしい建物でした。どこがすばらしいかは実際に建物を見て発見して下さい。」　ヒデさん



桜(うえだの?)も、団子も、歴史探訪も素晴らしかった。
幸子

乙女の滝に乙女は一人、昔、昔の乙女は、温泉が一番でした
（とっくに咲き終わったハコで一す。）

“桜見捨てリーツアー„のこと やっと念願かなった初参加で少々興奮気味‥で出発！「どこ？どこ？どこへ行くの？」「きょろきょろ」のミステリーツアーでしたが、ほんとに遠くまで行ってきました。そして私にとって不思議なツアーだったのです。

帰ってきて地図をたどって解ったのですが、なんと社会人一年生の私が赴任していたところだったのです。途中、なんか見覚えのある山だな～と思っていたのはやっぱり“花岡城址„だったようです。子どもたちと「自然観察」と称し、お花見に行ったところです。近所のおじさんたちもお花見していて、ちゃっかり坊主は焼き鳥なんかくわえてきたっけ‥本当に懐かしい‥あの子達はもうおじさん、おばさん‥どうしてるな？子どもも先生もまあまあ大事にされていたよき時代でしたね。

そして十国峠近くの「乙女の滝」、「古谷温泉」爽やかな自然の風が心地よかったのですが･･･そこも佐久町‥ということは学区内‥当時の子どもたちはどんな思いで通ってきたのだろう? どんな生活をしていたのだろう? と考えてしまいました。そして、何も解らない教科担任だったとしても「もっと優しくしてあげればよかった･･･」とつくづく間に合わない反省をしてしまいました。

そして“新海三社神社„はそのときご一緒だった伴野先生（確か神主さんでした）のお宅でした。それも帰ってきて年賀状で住所を確かめて解ったのですが‥初参加の“ミステリーツアー„はほんとに私にとって懐かしく感慨深いものでした。「孫の手さん」，「都々平さん」ありがとうございました。

乙女の滝でハコさんと

## 私からあなたへ　ま～ゆとの 出会いなど

**ぶんちゃんからバトン受け取りました ″藤 さん„ です。今日から（というか秋和のま～ゆ畑の名札から）″藤 さん„ で宜しく！です。**

次から次へと展開していく「ま～ゆ」の活動に楽しく参加しています。

子供の頃はサラリーマン家庭で食べ物はほとんど買っていましたし、結婚してもそれは変わりませんでした。子育てを通して食べ物に興味がわき、その大切さも学びました。

食べ物にいろいろ疑問を持ったり、不安を感じたりしていたとき「ま～ゆの手作り味噌」を知りました。「子ども劇場」時代の安井さんがリーダーということもあって嬉しくてすぐ仲間入りをしました。・・地域通貨の詳細ははあとからついてきたのですが‥。

私は食べ物は「安心も美味しさのうち」と思っていますので、まちこさんの家で仕込んだ味噌には本当に感激でした。（麹室があって麹まで手作りでしたから）そして前田さんの家で仕込んだ 味噌の美味しさも感激も変わりません。

その上嬉しいことに、自然大好きの私にとって須川の田んぼや畑、今年は秋和の農園?まで・・。体験の場がどんどんひろがっていきます。

正月の「お餅」も杵と臼で手作りです。「落花生」もザクザクと小判のように実をつけたのを、掘って頂いたときにはもう嬉しかったですね。 茹でて食べたらまた美味しくって・・。

でも本当の大変なところは他の多くの仲間が担っていてくれるので、「楽しく」参加していられるのだと思います。本当に感謝です。感謝を形にしたいのですが、いつになることでしょう？ 頂くばかりの感謝ですがいつか何処かでお返ししたいと思っています。これからも宜しくお願いします。

№75 藤 倉 佑 子でした

**次は「都々さん」もご希望の男性で「Good・Man」さんお願いします。**
**（ジャガイモの種芋植えのとき春菊ご馳走様でした。）**

# 須川だより

３月４月と寒い日が続き昨年より１週間ほど遅い桜の開花となりましたが、里では葉桜に変り新緑が目に染みる時期となり、須川の谷にも春がやって来ました。このプロジェクトも４年目を迎え自給自足体制が徐々に整いつつあるように思われます。自然と一体になり、　楽しみながら本当の豊かさを実感しつつやって行きましょう。

## 春の大イベント 田植えのお知らせ

＊日　時　５月29日(日)　９時～１２時
＊場　所　ま～ゆ田んぼ（須川湖の手前右下橇田）
＊持ち物　田植えの出来るかっこう、お弁当、おやつ
　　その他（天候によっては雨具）
子供達も含め大勢でにぎやかにやりましょう。

## 平成 17 年度 須川プロジェクト 作業計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 田んぼ | 春起し（中旬） | 畔草刈①（中旬） | | 田の草取り（中旬） | 田の草取り（上旬） | 落水（上旬） | | 収穫祭（10日） | |
| | | 田植え準備（23～28日） | 田の草取り（中旬） | 中干し（中旬） | | 畔草刈④（上旬） | 田起し（中、下旬） | | |
| | | 田植え（29日） | 畔草刈②（下旬） | 畔草刈③（下旬） | | 稲刈脱穀（下旬） | | | |
| 畑 | 畑作り（上、中旬） | アスパラ手入（上　旬） | 豆蒔き付け（上旬） | 麦脱穀（上旬） | じゃが芋収穫（上旬） | | | | |
| | 麦の土寄せ（上旬） | | 麦刈り（下旬） | | | | 麦蒔き（中旬） | | |
| | じゃが芋植（23日） | | | | | | 豆収穫（下旬） | | |
| その他 | | 水路草刈（15日） | | | グランド草刈（上旬） | | | | 炭焼き（1～3月） |
| | | 竹林の手入れ（上、中旬） | ほたるコンサート（下旬） | | じゃが芋パーティー（８日） | | | | 味噌仕込み（下旬） |

# ま～ゆな人

## №104 鴇沢（ときざわ）　皓一（こういち）さん

今回登場の ま～ゆな人 鴇沢皓一さんは“学生 地域暮らし創り考房 こみっと„に籍を置き、<共同代表兼コミニティ・レストラン事業部部長>の肩書きをもつ学生??フリーター??で、最近ま～ゆに入会された、ま～ゆの期待の星<通称トキさん>を紹介いたします。

丸子町中丸子の親元から、下之郷まで通っている。
３人兄弟の長男　血液型O型の 21 歳。他人からは、年齢相応と言われます。
「自称 18 歳に、しておいてくださーい」を強調された。
県外には、脱出した経験がない。(それというのも、一人暮らしをする自信がないから、県外にも、県内であっても、遠くへは行かない)。

本人曰く、「長野大学生ではない。大学の活動に関して無関心だから」という。学内に友人・知り合いはほとんどいないそうだ。フリーターの方がお似合いかも・・・・。
今盛んに、社会問題になっている。“ニート„に対しては、「恥ずかしいことであり。社会に出てなお、親の世話にはなりたくない。」とし、身近にもそういう若者が居る。では、そういう人々を、社会復帰させるには、どうすればいいと思うか聞いてみた。
「現在の縦組織の社会を無くし、若者が経営している会社が、あればいい」と言う。それなのに、ライブドアのホリエモンにも、全く興味はないと言う。トキさん自身は「自分としては、“進んでやりたい道に、杭が出て居れば徹底的に打ち込む。でも、道以外に出てる杭には さわりたくない„」と
そんなトキさんは、腹がたつこともないし、特別将来の夢もない、趣味もない。しいていえばドライブくらい。やはり、いろんなことに参加してみたいけれど、入りかたが、分からない。失敗するのも嫌だから・・・。

ま～ゆに入会したきっかけは、今年１月の例会のまゆ玉作りに古田さんに誘われた。
入会しての感想は、
- ●会員の人達には、面白い人が多い。
- ●地域通貨の通帳は、いきなりは使えない。
- ●現金で使えない部分を、使えるのが良い。
- ●若い人の発想が欲しい、と言われないのが良い。

そして、現在していることは・・・
古田専門ゼミナールで、“共生の地域作りを学ぶ„をテーマに、いろいろ勉強をしている。見せて頂いた<古田ゼミナール論集>の中にはトキさんが得た知識が、読み切れないくらいぎつしり詰っていた。
「今はこれをしているのが楽しい」というだけあって、ひとつひとつが、貴重な存在である。
☆地産地消…地元生産―地元消費　を略した言葉（地元で生産されたものを、地元で消費する）
◎ 上田市において、地産地消を進めていくにはどのようなことが、必要か。
◎ 市内にある、直売所で販売されている、地元農産物の安全・安心であることを、明確化する。
◎ 遺伝子組み換え作物の栽培規制、等 等。
その中で昨年・ねずみ大根の栽培・山口大根の漬け込みも行った。
これこそ ま～ゆの真髄ではないだろうか。

「いろんな人と出会うのが好き」で、“コミニューテーレストラン„ にも興味ありだとか・・・。

お酒はいける方で、飲まないときは送迎に励む。一ヶ月に一度は徹底的に呑むそうである。

入会し、間もないとは思えないチョットユニークなトキさん。「ま～ゆはおもしろい人が多い」というトキさんも、もうしっかりま～ゆに浸かっているように思える。やはりま～ゆの期待の星である。

コボル 記

※事務局より
古田専門ゼミナールの論集は都々平宅にあります。
閲覧希望の方はご連絡ください。

卒業論文

# 地域コミュニティの可能性を探る～ 地域連携の活動と広がりに着目して～

「地域って面白い、人間関係の広がりって面白い。」それが 4 年間の学生生活で感じたことでした。

私が、卒論で何を書きたいか考えたときに頭に浮かんだのはま～ゆの皆さんのことでした。ま～ゆには、こみっとでの活動をきっかけに参加するようになりましたが、ま～ゆ市に行くと楽しい気持ちになり、いつも元気をもらっているような気がしていました。隣の席のいままで知らなかった人とも自然と話ができる雰囲気。参加者が毎回増え、自分の知り合いも増えていきました。人と人の輪がどんどん広がっていくことがとても面白く感じられました。そして多くの人が集まるこの会は、ある意味ひとつの村みたいだと感じていました。

そこで、卒論では、地域団体や NPO などの活動が発展していく過程で、その活動を通して生まれる人と人とのつながりに注目してみたいと考えるようになりました。最近は、地域ごとにさまざまな活動が住民主体で展開されていますが、各活動を発展させるのは、使命達成のためだけでなく、人と人とのつながりを作るための手段としての意味も大きいのではないか、それによって、今までとは違う地域のコミュニティが新たに構築されるのではないかという仮説を立て、そして、その人と人のつながりは、情報やネットワークを広げ、地域の活力を高めることへと発展していくのではないかということを卒論を通して考えてみることにしました。

【卒論の内容】

第 1 章では「コミュニティ」、「地域」、「自治会・町内会」についての定義とともに、歴史の経過の中で地域住民同士の関わりがどのように希薄になっていくかを述べています。

コミュニティとは、地域社会、共同社会、共同体などと訳されます。日本で、「コミュニティ」が定義され、行政上の新たな課題として考えられるようになったのは、1969 年ごろからで、高度経済成長の進展によってもたらされた地域矛盾にたいして住民、政府が地域の再編と個別化した住民生活の把握の必要性を考え始めたからです。

私は、コミュニティを一番大きな枠としてその中に、地域があり、地域の中に町内会や自治会があるという位置づけで内容を構成しました。

第 2 章では「NPO」、「コミュニティ・ビジネス」についての定義をし、その特徴や必要性から今後の課題を考えています。

また第 1 章、第 2 章を通して、私なりに「地域コミュニティ」を定義し、４つに分類しました。それは、①地縁型コミュニティ②テーマ型コミュニティ③電子型コミュニティ④ネットワーク型コミュニティです。これは、井上繁氏のコミュニティの 3 類型を発展させ、再定義したものです。この 4 類型に従って、第 4 章では事例研究を行いました。

第 3 章では、国民生活白書から、地域住民の近所づきあいの様子や、地域活動への参加の様子、地域活動を継続させるためにはどう参加者を募るのが有効なのかを国の調査を踏まえ分析しました。

この調査によると、地域の活動に興味を持っている人は多いのに、実際に参加している人は少ないということが分かります。しかし、参加者を増やすためには、人的なつながりによるクチコミが一番有効であるということも明らかになりました。

第 4 章では、前述した 4 類型をもとに 8 つの団体を事例として紹介しています。

この章でま～ゆの田んぼプロジェクトを事例の一つとして取り上げました。中島さんと、須川の青木一男さんからお話をうかがいました。

この田んぼプロジェクトでは、いままで関わりの無かった須川の人と「ま～ゆ」の人の

間で新しいコミュニティが構築されています。現在は、中島さんと柴田さんと須川の数人の方という線のつながりですが、須川夢プロジェクトが本格的に動き、「ま～ゆ」のイベントにもっと須川の方が参加してくれるようになれば、もっと面的な広がりになっていくのではないでしょうか。「ま～ゆ」と須川の関係は、地縁型組織同士や、地縁型組織と行政といういままでの関係とは違う、地域団体と地縁型組織という一歩踏み出した新しい形だといえます。また、田畑で作った農作物を参加者に配当するだけではなく、残りはま～ゆ内や農協に販売し、次の活動資金にしていることも興味深く、注目した点です。

第5章では、まとめとして定常型社会や社会的共通資本にも触れながらこれからの地域コミュニティのあり方を考えました。そして事例研究を通して、①地縁型組織におけるコミュニティの可能性として、地縁型組織の中から自発的に集まるような集団が結成されることが必要ではないか。 ②地縁型組織と地域団体間におけるコミュニティの可能性として、地域団体が活動を継続、発展させていくためにはいかに地縁型組織と連携し、地域に根付かせるかが必要ではないか。③地域団体間同士の連携におけるコミュニティの可能性として、団体同士がネットワークを構築することで、団体ごと個別の目的や方向性をもちながらも、大きく見たときに一つの方向に向けて活動できる関係が望ましいのではないか。という 3 つの可能性を考えています。

最後に地域活動の展開とそれによる人間関係の広がりから得られるものを私の実体験から述べています。それは、「地域づくりは人間関係づくり」ということです。地域活動に参加することで、知識が増えたり考えが深まったことはもちろんですが、前述したように何よりも多くの方と知り合いになり、人の輪がどんどん広がっていくという実感がありました。それは、自分の生活が楽しくなるとともに、地域に対する愛着を持つことへもつながったといえます。それって地域づくりの本来の目的でもあるのではないでしょうか。つまり、個人個人の関係をつくることの積み重ね（人間関係づくり）がやがて地域コミュニティを活性化させ、地域の活力を高める（地域づくり）ことへとつながっていくといえるということです。

以上、これが卒論の中身です。

…これは余談ですが、そもそもなぜ私が「地域」というものに興味を持ったのか、それは大学の授業で望月町のまちづくり講座（現在はまちづくり研究会）に参加したことがきっかけです。それまで、「地域」といえばしがらみが強くわずらわしいものだと考えていましたが、まちづくり講座で出会った人たちとのやりとりを通して、漠然と「地域って面白いかもしれない」と感じることができました。つまり、まちづくり講座はその意味では私の原点ともいえるものなのです。

2 月のま～ゆ市に、望月町のまちづくり研究会の方が見えていましたよね。私は、人知れずこの運命的な再会に感動していました。卒論の直接のテーマを与えてくれたこの会で、一番最初のきっかけを与えてくれた望月の方たちに学生最後にまた再会することができた。「すごいな、ま～ゆ！！」と心から思いました。

現在の私

私はこの春から長野市内の印刷会社で働き始めました。社内の各部署での研修も終え、最近は少しずつ取引先へ一緒に連れていってもらっています。働き始めて、日にちが経てばたつほど働くことの厳しさを感じることが多くなりました。自分は何もできないんだなと落ち込むこともあります。でも周りの人がみんなとてもいい人ばかりなのが救いで、毎日何とかやってます（＾_＾;）先月末に待望の初任給もいただきました。なんだかそのお金がすごくもったいない気がして、浪費家の私が財布を開く前にちょっと考えるようになりました。

そして相変わらず、上田にはちょくちょく顔を出しています。やっぱり会いたい人たちもいるし、大好きな土地でもあるから、私自身が元気になれるんです。ま～ゆ市だって実は毎月楽しみにしています。中野からの運転でも、仕事帰りでも、そんなことは苦になりません。平日は行けないことが多いですが、田植えも、生ビール祭りも手帳にはすでに記入済みです。だから皆さん、これからもどうぞよろしく～～！！

No.36 岩 下 美 鈴

# ま～ゆな人

## 恥をかき、わた史を書いてみる
### －その弐－
### No.14 古田恒男

ま～ゆの皆様お待たせいたしました。今回は―その弐―をお話したいと思います。

舞台関係者と会うときの挨拶は「おはようございます」である。今思えば、この癖が今も続いているのだろうか…。

私もようやく“お付き„にも慣れ、先生の身の周りからスケジュール等々に気配りが出来る様になって、一日中都内を駆け巡った。同じくして、朝のレッスンもようやく型になってきたが、女性と組む踊りはどうも抵抗を感じる。高校の体育の時間のフォークダンスでさえドキドキしたものが…。「昔はシャイでした。」

職業となると手をつなぐ位のものではない、女性をリードして「廻す」「抱える」「引っ張る」「接近する」「顔と顔が近くなる」など、結構刺激的だった。そのため、とにかく汗が出る。熱い冬でも汗でベタ付くので、女性に悪い様な気がしていた。言葉に出来ない変な気がしてならない…。

まだまだ下手な我々には“アダジオ„と云って、女性を高く上げたり、腰をかかえて廻したり、一回転させたりすることはまず無理だった。レッスンの積み重ねはいづれ書くとしよう。

さて、今回の本題は振り付けの先生の“お付き„についてのエピソード。このお話しを書くことにしよう。

－新宿コマ劇場での事－

劇場が新築され、コケラ落としの出し物の練習中(草笛光子)主演、他多数の人々(女性ダンサー30名)のラインダンスの振り付け中、時間は真夜中1時頃から始まったが、みんな眠いので記憶が悪くなって来る。先生は何回も繰り返していたのだが、客席で見ている私に「水をもってこい！」との事。私が飲み水だと思い、ヤカンとコップを持っていったら、「バケツで持って来い！」と怒鳴られた。どうするの？と思っていたら、その水をダンサー達にかけたのである。もちろん舞台の上の出来事である。それを見ていて、驚いたのはダンサー達よりも舞台関係者(監督・照明・進行等など)だった。水に濡れた舞台は振り付け中止になる。ダンサー達の中には泣く子もいた。4～5人のグループで座り込む子もいる。みな唖然とし、空気が凍った。しかしながら、楽屋に戻ろうとする子は1人もいなかった。私が次に驚いたのは、ダンサーのお尻をムチで叩く音だった。その瞬間客席にいた私は眠気が完全に覚めた。

自分の体が震えている…。プロになる為の厳しさを知らされた思いである。

ダンサー達が、水でぬれた舞台を掃除する。きっと気を入れ替えていたのだろう。

再び練習に入る。ダンシングチームに合格した女性たちにすれば、すぐ踊りを投げ出して「ヤメタ！」とは云えない。我々が何ヶ月に一度位振り付けに行くのとは違い、毎日毎日が観客との戦いである。誰が、どんな人が見に来ているのかわからない。例にあげるのならば、会社の重役

新聞記者、外国のプロデューサー、なのである。抜擢されて、アメリカ、スペイン、ロシアなどに行った女性もいる。

さて、少し話しが戻るのだが、私自身のレッスンもやっと一年半が過ぎ、「そろそろ舞台に出るか？」と先生の言葉。私は喜びと不安が入り乱れていた。もちろん、不安のほうが大きいのだが…。

ここで一つ。古い話しなので、皆様の中には名前も知らない人が出てくるのですが、ご了承下さい。

初舞台は有楽町の日劇の5階、ミュージックホールだった。

## 金瓶梅

演出・　丸尾長顕
振付・　高岡繁夫
主役・　トニー谷
歌・　丸山明広（美輪明広）
踊・　奈良あけみ・春川ますみ等

出し物は中国の小説（物語）をコメディータッチで舞台化したもの

金瓶梅（キンペイバイ）とは…
藩金蓮（ハンキンレン）
李瓶児（リヘイジ）
龐春梅（ホウシュンバイ）

三人の美しき女性と豪商西門慶の愛欲生活を描いた物語である。名前の由来は登場人物の女性の名前の一文字を抜いて、金瓶梅と名づけられたものである。

踊りと演技をすることになり、初日は極度の緊張のせいか、何をやったのか全く覚えておらず、夢の中にいた様な気がした。初日は関係者が大勢きた。新聞の芸能記事には…「今回の男性出演者は力不足の感じがある」と書かれ、頭の中が真っ白になった。二日目の舞台に出るのがいやになった。町を行きかう人の顔が見られない。街行く人々が自分を見ている様で怖かった。

同じ練習を繰り返し、一人前になった頃、公演が終幕に近づいていた。先生には恥をかかせた思いがする。先生はこんなことでくじけていては、芸界で生きて行けない、もっと思い切って大きな事（ハデ）にやろう、と元気づけてくれた。

次回の事を思案中なので、二ヶ月ぐらいをめどにして頑張ろう。目標に踊りを続けることにした。

次回は大きな目標を目指し、書くことにしよう。今回はこのへんで

日劇ミュージックホールの活動は３期に分けられるそうです。
第１期は昭和 27～33 年くらいです。この時代の代表的なダンサーには、伊吹まり・メリー松原・ヒロセ元美・ジプシーローズ・春川ますみ（メリーローズ, 愛称ジャンボちゃん）・奈良あけみ、らがいます。トニー谷・関敬六・岡田真澄・ＥＨエリックらがコントで活躍し、三島由紀夫が脚本を書いていた、まさに黄
左記で紹介した舞台が私の初舞台となった。

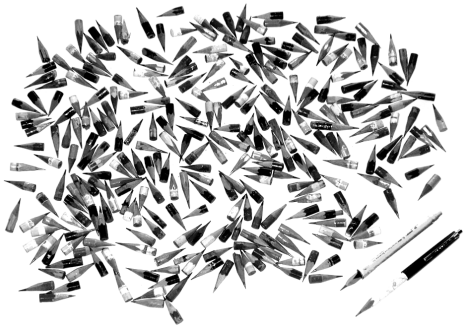
## 都々平・ミーすけの エコ²家族

# 骨まで愛して

「この家は物持ちがいいねえ」一昨年引越しを手伝ってくださった ごんべえさんは呆れたようにこう言いながら家財道具を運んでくれました。物を捨てることに抵抗のあるわがエコ²家族„には他人から見るまでもなく、当人も認める“ごったくを大事大事にするくせ„が抜けません。大収納の下駄箱にはもう履くことのなさそうな靴や下駄が窮屈そうに並んでいます。ほかの物をしまって置くつもりの物置には“いつ役に立つやら見当もつかない„端材が山になっています。旧店舗の棚のあちこちには、「もらってくれる？」と他人さまが手放した物まで詰められています。その 2 階にも……。

商いをした名残のような売れ残り品も捨てられないものです。縫い糸・縫い針・裁縫用具・等関心のある方は掘り出してま～ゆで買ってください。木製の包みボタンや貝で作ったワイシャツボタンなんかおよそどこを見つけたって出てこない珍品も片付けられないまま残っています。

慢性病というほか無い“貧乏性„ですが、ちょっと自慢をさせていただきましょう。この鉛筆はざっと300本はあります。およそ7～8㎝になると、使えなくなったサインペン等の軸(同じくらいの太さ)を切って鉛筆につなげたり、ボールペンのキャップにねじ込んだりします。この段階からは鉛筆削り器は使わず小刀で丁寧に削るのです。こうしてお役目を終わった鉛筆ちゃんを私はゴミには出せなかったのです。シャープペンが普及していても鉛筆には捨てがたい味があるので、今でも徐々に増えていっています。



消しゴムも大豆ぐらいにチビたのを使っていたら、ある人が「景品でもらった」のをくれました。小さい字を消すには大きい消しゴムは不向きなのに…何という無粋な人でしょう。大きなお世話というものですね。

印刷ミスで無駄になった用紙も捨てません。会報を編集していて試し刷りの機会が多いので、インターネットから取り込んだ情報やメール等残しておきたい場合、この裏に刷っています。プリンターのインクも私が使っている機種は“もう一息がんばれ„の機能があるのでトコトン活用して最後の一滴まで使い切ります。

着る物も然りでフトコロ具合からも“着たきりスズメ„を通しています。ほんと今の繊維は丈夫になって何年着たら擦り切れるんでしょうね。お下がりが多いので私の“好みのファッション„なんて「そんなものありませーん」。おまけに家の中では一年中裸足の私には靴下への投資もありません。真冬にいくらか冷たく感じる日もありますが、慣れたらなんとも無いものですよ。(しもやけにはちょっと……)

さて、お次は食生活です。3 人きりの生活で娘が一緒に食事する機会が少ないこともあって、適当に済ませてしまいがち。下戸でお茶以外の飲み物もあまり好まなく、ペットボトルのゴミはほとんど出すことがありません(娘は別)。外食も「これって食べたい物はないし、美味しくもない」のでめったにしません。だからお金はかかりません。

お菓子に果物・漬物・煮物・そしてうどんまで、ここ数年頂き物が増えました。都々平もミーすけも好き嫌いが無いからどれだって残さずきれいに胃の中に入れてしまいます。画一的なわが家の味とは一風変わった美味しさに舌鼓を打つ幸せ、それがエコ²の生活に直結するのですから、こんなありがたいことはないのです。

“捨てられない„思いは食品でも同じこと、少々日が経っても食べてしまうミーすけに腸が弱い都々平はついていけませんが、工夫してトコトン食べつくす努力はしています。

そこでお勧め“骨まで愛してしまう„裏ワザをご披露しましょう。

そうです、文字どおり骨まで食べるのです。わが家の食卓にはサケがよく載ります。暮にいただいた新巻は切り身にしてラップに包み、冷凍保存しますから、これを小出しにしていればずいぶん長く食べていけます。美味しいアラも特価で買えますから、サケの骨は捨てたら大変、「カルシウムが摂れるし」と考えてやってみました。

答えは以外に簡単で、〝電子レンジにかける〟ただそれだけのことですが、それには幾らかのノウハウがいります。直接入れてのチンは内部が汚れるので、スナック菓子の袋等をかぶせてからにしましょう。そしてかける時間、これは試行錯誤しかないのでご教授できません。とにかく旨いので、酒の肴なんかにはもってこいだと思います。是非今日から試してみてください。魚はサンマも悪くありませんがサケの右に出るものは無いようです。

# ま～ゆ秋和菜園 スタート

4月16日に整地、堆肥撒きをして秋和菜園が始まりました。よく目立つ看板と、ヒデさんとにゃんこ先生が作ってくれた名札が並び、地元の人はもとよりアクアプラザに通う市民からも注目を浴びているようです。レタスを植えたあと欲しい雨が無くてやきもきしましたが、ようやく5月１日に降ってほっとしましたね。

“かじやさん”指導のもとに消毒薬に竹酢液を使うなど自然と仲良しの畑にしたいと思います。ごんべえさんと孫の手さんが竹林を切り開いて、これで炭焼きをします。体力的には苦労でも、みんなが力を合わせて楽しく作業をし、それが形になっていくのは嬉しいものですよね。

これからトマト･茄子･きゅうりに枝豆、落花生や里芋などなどなど、いまから夏野菜の収穫が楽しみですね。

ここでは土地の提供と農事指導をしてくださる“かじやさん”にお礼としてお金とま～ゆを支払いました。名札も同様に竹内さんに100円＋100ま～ゆをお渡ししています。

植えているのは、長ネギ
植えている人は、玉~~ネギ~~ちゃん

水遣りで大活躍しました。
孫の手さんの頭ではありません

今年から味噌づくりに使う大豆を平井寺地籍でも栽培することになって、ここで作業に参加された方にはま～ゆでお支払いするプランを立てています。このま～ゆを「味噌づくりに連携できないものだろうか？」良いお知恵を出していただきたいと考えています。ま～ゆをうまく使い回して、地域通貨としての役割がより大きく広がればいいなと思いますがいかがでしょうか。

№55 ミーすけこと前田美枝子

編集を終って

23号も多くの会員が登場しました。いまや全国に500～600は存在するといわれている地域通貨の中で、このように自主的に参加する“ふれあいの場„(ま～ゆ市等々)を持ち続けているのは多分「ほかにあまりない」様に思います。

4月の味噌作りから始まって、須川をはじめ各プロジェクトが活発に動きだしました。また、お楽しみのイベントもいろいろ用意されているようです。

「こういう機会にま～ゆを使ったら？」の声があり、4月の世話人会で協議されました。プロジェクト毎にそれぞれの事情があって一律に決められないということで、リーダーの裁量に委ねることになりました。私としては積極的に推進してほしいと思います。地域通貨は使うことに価値があるのですから、その絶好の機会だと考えたいのです。

評判のいい素敵な“新通帳„を常に身につけて、いろいろな場面でま～ゆを使いましょう。そして、「こんないいことがあったよ」と吹聴しましょう。“お助け一覧表„に掲載されていなくても、知り合いの人から紹介してもらって「願いがかなった」例は結構あるようです。ダメモトの精神でアタックしましょう。またモノ・コトを提供した人は遠慮しないでま～ゆを請求しましょう。そして必ず握手、これを忘れないで下さい。

No.50 都々平